

令和 6 年度 世田谷区立希望丘小学校 学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立希望丘小学校
学校関係者評価委員会
委員長 浦 五月

○回収率

児童 96% (5, 6 年生)、保護者 74% (1~6 年生)、地域 43% (回収 18、配布 42)

○評価方法

- ① 児童・保護者・地域のアンケートを実施した。評価は A [とても思う] B [思う] C [あまり思わない] D [思わない] E [わからない] の 5 段階。
- ② A+B を肯定的評価とし、C+D を否定的評価とした。肯定的評価をベースに評価したが、否定的評価・分からぬが 20% 以上の項目については個別に検討した。(小数点以下四捨五入)
- ③ 今年度の評価に当たり、次のように対応した。
児童のアンケートについては、教育委員会の方針に沿って、5, 6 年生のみを対象にして実施した。アンケートは、ウェブ調査を採用した。地域の方向けには、ウェブ調査と従来の紙媒体のアンケートを選べるよう両方式を併用した。
- ④ 初めに重点目標について評価し、次に項目別に評価した。
- ⑤ アンケートに基づいて評価した他、学校の配布物、ホームページ等を資料とし、学校公開・運動会・学芸会等を参観し、総合的に評価した。

○総合所見

教職員の教育活動での取り組みの工夫により、児童、保護者、地域ともに前年度より評価が高い項目が多く、教育活動は着実に成果を上げているといえる。

重点目標に関しては、肯定的評価 80% を「達成の目安」として評価を行った。この観点から 3 つの重点目標は概ね達成されている。

一方、地域との連携や学舎の活動についての項目は、「わからない」との回答が 20% 以上あった。情報提供についての項目は高い評価となっているため、保護者、地域が個々に情報を受け止める環境は構築できているといえるが、取り組みに対する設問については「わからない」の評価が 20% 以上あるため、地域との連携や学舎の活動についてのより丁寧な説明の発信をお願いしたい。

児童数が増えている中で学校行事、学習環境に対する評価も高く、その背景には、校長のリーダーシップのもと先生同士の協力やコミュニケーションが円滑に行われ学びの環境の質が向上していると考えられる。これを本校の強みとし、今後も保護者、地域との連携を密に児童の安全や健康に対する意識を高めることをお願いしたい。

○重点目標に沿った評価

数値目標：学習面に関する児童、保護者の肯定的評価の割合を80%以上とする。

重点目標1 豊かな知力の育成 よく考え、工夫する子ども（探求心を持って主体的に学ぶ姿勢）
重点指導項目：探究的な学びの実現に向けた授業改善、タブレットの効果的な活用、創作活動・体験的な学習、基礎基本の確実な定着、読書活動の充実など

本校では、校内研究の充実、学校内外の研修の参加等を通して「探求的な学び」の実現に向けた授業改善に取組むという目標を立てている。保護者もこの点を理解しているよう、学習面についていざれも高く評価されている。

特に「考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」の児童が89%（昨年度91%）、保護者は76%（昨年度78%）、「考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の児童が95%（昨年度94%）、保護者は79%（昨年度78%）と高評価で目標をほぼ達成しているといえる。

重点目標2 豊かな人間性の育成 心の美しい子ども（親切、思いやり、言葉、礼儀）
重点指導項目：温かく美しい言葉遣い、挨拶の励行、相手の話を真剣に聞く、いじめの防止、助け合いの精神の浸透など。

アンケートでは「進んであいさつする」は児童86%（昨年度80%）、保護者80%（昨年度71%）、「友達が困っている時、やさしくしてあげる」は児童85%（昨年度77%）、保護者91%（91%）と全体的に高評価である。

また「相手の気持ちを考えた言葉遣いをしている」については、児童が75%、保護者は73%となつた。昨年度、子どもと親とで言葉遣いの評価について、求めるレベルの違いが表れていた評価項目であったが、今年度は児童と保護者いざれも肯定的評価が高く、目標を達成しているといえる。

重点目標3 健やかな身体の育成 たくましくがんばりのきく子ども（心身の健康、苦難に負けないこころ）
重点指導項目：体力調査から課題を明確にした体育指導、一日一回は体を動かす機会の設定、保健指導・給食指導など。

アンケートでは、保護者の「運動したり身体を動かしている」が76%（昨年度69%）、児童の「運動や身体を動かすことが楽しい」が84%（昨年度79%）といざれも昨年度より高い評価結果となつた。コロナ禍を経て外出する機会や、習い事など外へ目を向ける機会が増えてきたのではないだろうか。

また「すききらいなく食べるよう努力している」の児童が70%（昨年度77%）、保護者82%（82%）の結果であるが、この設問に対して「とても思う」と回答した児童は46%おり、目標をほぼ達成しているといえる。

○項目別評価

① 学習指導について

アンケートの「授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある」が児童 95%（昨年度 94%）、保護者 79%（昨年度 78%）、と高評価である。他方、ICT 機器の利用面では、「映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」が、児童 89%（昨年度 86%）に対し、保護者が 63%（昨年度 61%）と低い。

「学校生活は楽しい」は児童 91%、保護者 87%、児童の「学校が好き」は 82%、保護者の「本校の教育活動に満足」は 74%と評価されている。

宿題については、児童の「家庭で宿題や e ラーニングでの学習をしている」が 67%と昨年とほぼ変わらない結果となったが、保護者の「宿題をする子に育っている」が 76%で 11 ポイント上がった。しかし「家庭で自主的に学習している」が 56%（否定的評価 42%）とやや低い。

先生方が熱心に授業改善をした結果がアンケートに表れており、学習指導における児童の肯定的評価は昨年度と比較すると全体的に高くなった結果となった。引き続き工夫ある授業の継続をお願いしたい。

② 生活指導

児童の「先生は、学校の決まりを守らない児童に注意している」が 90%、「先生に注意されたことは理解できる」が 92%、「学校の決まりを守って行動している」が 82%となった。保護者も「学校での過ごし方やルールについて子どもたちに考えさせる指導をしている」が 70%、「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」が 79%といずれも高い評価結果となった。児童からの評価が高いのは日ごろの先生方の丁寧な説明と指導が行き届いている結果だと思われる。引き続き指導をお願いしたい。

③ 行事

アンケートの「学校行事は楽しい」は児童 95%、保護者 94%、「達成感がある」は児童 87%、保護者 93%、「意欲を大切にしている」は児童 83%、保護者 81%と評価している。地域も「充実している」が 95%、「地域への配慮がある」も 90%と、高評価である。

希望っ子班活動については、「希望っ子班活動は大切」は児童 76%（昨年 61%）、保護者 73%（昨年 71%）となった。

昨年度より児童の肯定的評価が大幅に高くなった。希望っ子班活動については今後も評価の推移を見守っていきたい。

④ 学校運営

保護者の「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」は 82%と高い評価である。他方で、保護者の「保護者に学校の重点目標を伝えている」が 78%に対し、「今年度の学校重点目標を理解している」が 47%（否定的評価 33%）であった。昨年度とほぼ同じ結果となった。保護者の「私は学校行事、PTA や地域主催の行事などに進んで協力している」が 65%（否定的評価 33%）

と低いことと併せて考えると、重点目標を記載した資料は受領したが、学校行事やPTAの会合などに参加していないため理解までは繋がらなかったのだと推察する。

⑤ 教職員

教職員への信頼度は高く、「ていねいに指導している」は児童95%、保護者82%と高く評価されている。また「先生に相談できる」は児童が79%、保護者75%と高い評価となった。

児童、保護者ともに学校への高い信頼を表している。

⑥ 広報・情報提供

保護者の「様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」は88%、地域の「学校からのお知らせなどにより学校の様子が分かる」が85%と高評価であった。保護者の「学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」が93%、「私は学校公開に進んで参加している」が88%、地域の「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる」は95%とこちらも高評価であった。

地域の方も学校公開に参加されるようになり、保護者の学校に対する関心の高さが結果に表れている。時代に即した方法での情報提供に尽力いただいている結果であると推察する。

⑦ 船橋希望学舎

「区立中学校に関する情報提供」について、児童は49%、保護者は32%（否定的評価39%、分からぬ29%）と低い。児童の「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」が55%（否定的評価33%）、保護者の「学び舎の幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」が37%（否定的評価26%、分からぬ36%）と低い。学び舎との連携や交流については、今後も児童、保護者が身近に感じられるような情報の「見える化」に努めてほしい。

⑧ 地域との連携

地域の「地域の人や施設を教育活動に活かしている」が73%であるのに対し、保護者の「地域の人や施設を教育活動に生かしている」が65%。地域の方と触れ合う機会が見えにくいのであろう。また、保護者の「本校は地域の活動に協力的である」が66%と低い。町会・自治会主催の行事などに、子どもたちやPTAなどが参加しているのがアンケートの項目と結びつかないのであろうと推察する。

⑨ 地域から見た学校とのかかわり

地域の「学校運営委員会は活動を周知し役割を果たしている」が58%。「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」が32%。両方の項目ともに「わからない」が42%となっており評価ができなかつたのであろう。

⑩ 学校の安全

「安心安全な学校づくりを進めている」は地域95%、保護者76%、「地震などの災害の時、どうすればよいか分かっている」は児童90%、保護者72%であり、保護者の「避難訓練やセーフティ教室などで子どもに安全指導をしている」が92%、と高い評価を得ている。他方で、地域の「安全性を高

めようと地域と協力している」は85%に対し、「地域と連携して防災教育を推進している」は58%と低い。地域との避難所運営の活動が伝わっていないことが理由かもしれない。今年度から避難所運営委員会も参加・体験型の活動をしているため、今後も情報発信をして周知をお願いしたい。

⑪ キャリア教育

世田谷区はキャリア・未来デザイン教育を重点施策に掲げている。児童の「目標をもち、実現に努力している」は昨年度より11ポイント上がり81%、「生き方や将来について考える授業がある」も11ポイント上げて62%。保護者の「子どもに目標を持たせ、その実現の支援をしている」が52%、(分からぬ29%)、「子どもの生き方や将来について考える授業をしている」39%(分からぬ35%)と低かった。

児童の評価は上がっているが、「キャリア教育」が何を指しているのかイメージできるような情報が児童と保護者へ共有されると良いのではないか。今後も継続して説明をしていただきたい。

学校関係者評価委員：浦五月、勝村静子、藤原桂子、豊岡由起子、松本浩二